

## グローバル政策モデルの構築

<グローバル問題の分析から>

1006370 経営・情報コンサルタント 荻野 正浩 OGINO Masahiro

はじめに

グローバル政策研究部会は96年3月スタート、毎月第3土曜、大手町三菱総研で開催を原則に、マスコミや図書・雑誌などに出現したグローバル現象と、各国の政策を抽出・分析・討論を繰り返す中で、問題の広範さと重大さを再認識している。

本報告はテーマを提起した者として、グローバル政策を考える上で、まずグローバル問題とは何かを規定することから始め、その共通要素や個別要素の解明を進めることによって、問題の諸要素及び政策決定の一定のモデル化を目指したものである。研究の前途は多難であるが、人類や地球の未来を憂える諸兄諸姉の部会ご参加を期待したい。

### 1. グローバル問題の抽出

グローバル政策とはどんな課題を対象とするのかが問われる。マクロ的には当然グローバル問題を扱うことになるが、領域が広範なため当事者の考え方に依存するところが多く、その結果政策の性格までが発散してまとまりがつかなくなる。

本報告ではまずグローバル問題と考えられる現象をブレインストーミング的に抽出列挙した上で、KJ法的に事象の類似性によって分類した。分類は切り口によって異なるため一意に定まらない。ここではグローバル性の観点で一次分類したが、再整理の過程で見直しを試み、若干の入れ替えを行った。

### 2. グローバル問題の規模による分類：分類はモデル化の第1歩

1) 人類規模：人類そのものの存在や地球規模での生活環境を激変させる恐れのある危機的問題を指す。ローカル処理では解決不能なもの即ち大気汚染環境問題のように影響が地球全体に及ぶが、各自が原因者兼被害者だとか、資源の種類によって加害者や被害者に入れ替わるなどトータルの多数の関係国で解決が困難な事象である。

①核戦争、核事故による直接殺傷や間接の環境破壊による最悪の自体では人類滅亡危機

②環境破壊の汎地球性(CO<sub>2</sub>, オゾン層破壊、酸性雨)による大気悪化、紫外線増による健康障害や心身障害率の高まり

③人口増や気候変化などによる絶対的な食糧不足の蔓延と飢餓の不安

④資源の枯渇：エネルギー(石油)、水、木材、生物種

2) 国際規模：基本的に局地問題だが国際的な対応を要求される事象

①災害(地震、大火、油流出、油田火災)

②国家経済破産、他国侵入、国際経済摩擦

3) 準人類規模：一見局地問題だが、共通根が地球規模の問題

①宗教・民族・国境紛争、思想文化対立で、戦争や内戦による殺傷・難民流出等の悲惨な状態発生が随伴する恐れの高い事象

②今後世界規模での問題化に発展する恐れの高い事象

a. 科学技術の進歩による生命操作

b. 情報網のバリアフリー化による伝統の破壊乃至文化の衝突

③麻薬・犯罪横行による治安紊乱

注、特定の國の国内問題とみなされる「巨大プロジェクト、高齢化、少子化、核家族化、女性の社会進出」及び「技術開発に伴う国際標準化」の類は本論の対象外とした。

### 3. グローバル問題の原因

抽出したグローバル問題の発生原因の共通性は次のとおり。

1) 人間自身が問題の原因である

事例を一覧すれば「現在のグローバル問題はほとんどすべて人間の存在によって初めて生み出され、飽くなき欲望充足活動によって促進された」ことに気付く。

例：資源欠乏：食糧欠乏は途上国の人口急増、一般資源は先進国の乱費

民族独立運動：人工的国境、激しい貧富格差  
 核恐怖：核技術の発明  
 技術への恐怖：クローン人間の誕生とその悪用

2) 制御不可能な自然的現象の発生

他天体の衝突や地球自体の極逆転、自然災害（地震、噴火、台風、竜巻、山火事や雪崩、土石流、干ばつ、大雨、エルニーニョ現象）等、人知を超える自然の圧倒的力

3) 将来は人工的原因とくにクローン技術や意識制御技術などの科学技術の一層の高度化の蔭に潜む犯罪的悪用や誤用など人類の命運に絡む利用問題に関する解決の困難性の増大とともに、自然の脅威への対処の仕方が課題になろう（他天体の地球衝突、最終的には太陽の終焉への対策が絶対的な課題となる）

4. グローバル政策

自然災害については今後課題が明確になるにつれて地球規模での対応が進むと期待されるが、人工的原因事象については根本的には「文明という名の欲望充足活動にどう対処するか」という極めて人間的な解決方法が必要になる。

図表4.1 グローバル問題とマクログローバル政策

問題種類	事例	関係国	マクログローバル政策
人類規模	核恐怖 食糧不足 資源枯渇 環境破壊	保有国：非保有国 輸出国：輸入国 輸出国：消費国 世界中	軍事核全廃の合意・実行 増産技術支援・人口対策 節約・リサイクル・代替品 対策の世界合意形成・実行
国際規模	災害発生 経済破綻・摩擦、侵犯	被災国：その他 当事国	人道的支援・善意への依存 国際経済支援・交渉・反撃
準人類規模	民族独立運動の活発化 (テロ、内戦、治安悪化) 麻薬や科学の悪用	当事国、周辺国 世界へ蔓延	一件ずつローカル処理 未解決（人類の意識革命）

5. グローバル政策の国際的意思決定：協議の場の確保→国連の役割

国際的意思決定の流れは、基本的には「問題認識→実体把握→国際的対策協議（合意形成）→国際的合意→共同／個別実行」となる。問題認識及び実体把握の重要性はすべての問題に共通であり、改めて議論するまでもない。協議・合意形成の手法としてはグループAHPが提唱され多くの事例がOR学会誌や研究会などで発表されており、国内における国際政策決定や、国際的にはISOなどの規約制定分野での利用が考えられるが、社会的なグローバル問題については各国がどこまで本音で協議できるかに難点がある。一般経営の「対策協議・合意形成」では各組織の伝統に基づく統制によって一定の結論に到着するのに対し、国際問題では利害関係がもろに国家間対立を招きやすい。

6. おわりに

今回はグローバル問題の具体的指摘とその特徴分析に主眼を置いて報告した。特質毎の具体的なグローバル政策モデルはまだ思い付きの段階にある。マクロ的には「経済支援と秩序回復との整合（「飴と鞭」か／現代版マーシャルプランか）」が今日的要請であるが、その妥当性の研究は検証が進んでいない。更に個別政策では問題毎の歴史的過程が当事国の国民感情を支配するため、歴史モデルが横断的要因に基づくマクロモデルよりも決定的役割を果たすことが考えられる。この種クロス関係を含む国際政策モデルの構築についても次の機会にゆずりたい。